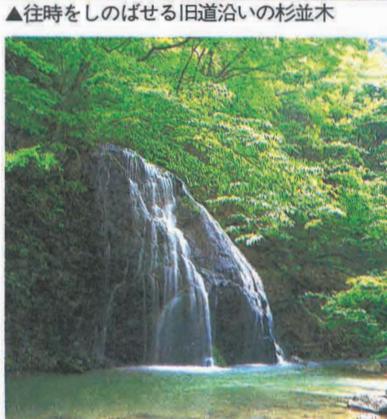
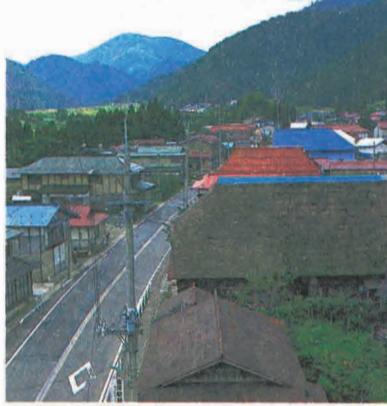




郡山市内毎週10万部発行!

# 週刊郡山 ザ・ナレッジ

発行所/週刊郡山社 〒963-02郡山市柏山町3番地企画室・コア内 (0249)61-7722 FAX (0249)52-6788(代表/広告・編集) 週刊・無料



新シリーズ

## 郡山の峠を行く①

# 勢至堂峠

湖南町から  
長沼町へ

その土地・土地の固有な文化や歴史をたずねる時、「峠」がひとつのかードになるんです、とおっしゃったのは、民俗学者の宮本常一先生でした。峠をみると、いろんなことがパノラマのようにとけてくる。辛抱づよくあや取りのようにならました現象をときほぐしてゆくと、二つの文化のちがいが歴然としてくるんですね。わたしは峠を見ると思わず舌なめずりをしてしまいます。高名な先生はそういう顔をくしゃくしゃにして笑いました。新企画「峠を行く」。そのうち郡山の固有なるものが見えてくるかも知れません。峠を通してのアイデントイテイサガしです。

峠は境です。第1回は、郡山市湖南町と長沼町勢至堂の境にある勢至堂峠を訪ねました。境は、結んだのだろうか、それともへだてたのでしょうか、そのあいまいとした意味も峠の魅力です。

歴史的には、勢至堂峠は、奥州街道白河から会津に抜ける「会津街道」もしくは「白河街道」の交通上の要衝として古くから栄えてきました。峠をはさむようにして湖南町御代地区にある三代の宿、勢至堂宿、共に宿場として栄えその名残りを今もとめています。

二代の宿の面影、勢至堂の旧道沿いの杉林……会津藩主が下に下にいと江戸への参勤交代をした道中のふんい気がしのばれるようです。

峠の頂きは標高732m。天正14年(1545)この峠をひらいた会津の領主、芦名盛氏が頂上に勢至菩薩をまつったので、勢至堂峠と名づけられました。

そういえば、有名な奥州仕置の際、豊臣秀吉も、長沼城にとまたあと、この峠を抜けて会津入りをしたのだそうです。NHK大河ドラマの1シーンを見るような。

### トンネルも開通



**最大のスケールを誇る  
教習コースと  
インストラクター陣。  
ライセンス取得は  
歴史と実績溢れる  
「西部」で。**

ご自宅と西部の往復は、スクールバスをご利用ください。市内循環をはじめ9方面。

ちっちゃなお子様は、ひろびろ託児室で専任の保母がお相手。

教習時間の予約や配車は、カードを使ってワンタッチでOKの、コンピュータシステムが好評です。

お支払いは、月々1万円ぐらいでOKです。

本物のドライバーを育てる  
**西部自動車学校**  
〒963 郡山市西ノ内2-11-35 (0249)(32)1600代